

浦部 大会新で連覇

女子200
自由形

全国高校総体

第14日

全国高校総合体育大会(インターハイ)第14日は18日、松江市の島根県立水泳プールなどで水泳競技を行い、競泳の女子二百メートル自由形で浦部紀衣(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で2年連続優勝を果たした。

男子二百メートル自由形では内田翔(群馬・高崎商)が1分50秒93の大会新をマークし、前日の四百メートル自由形と合わせ2冠に輝いた。同二百メートルバタフライの金田和也(東京・八王子)、男子百メートル背泳ぎの古賀厚也(埼玉・春日部共栄)もそれぞれ大会新で優勝した。

浦部 2年連続2冠に自信



浦部紀衣

女子二百メートル自由形は、浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で優勝。2位の選手に2秒以上の大差をつけて快勝した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

を兼ねた4月の日本選手権では百、二百メートルも3位に終わり、五輪代表の座はならなかった。「自分には五輪に行きたいという自覚が薄かった」と反省する浦部だが、高校総体では負けるわけにはいかない。

スタートから飛び出した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

◆水球男子の
浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で2年連続優勝を果たした。

浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で優勝。2位の選手に2秒以上の大差をつけて快勝した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

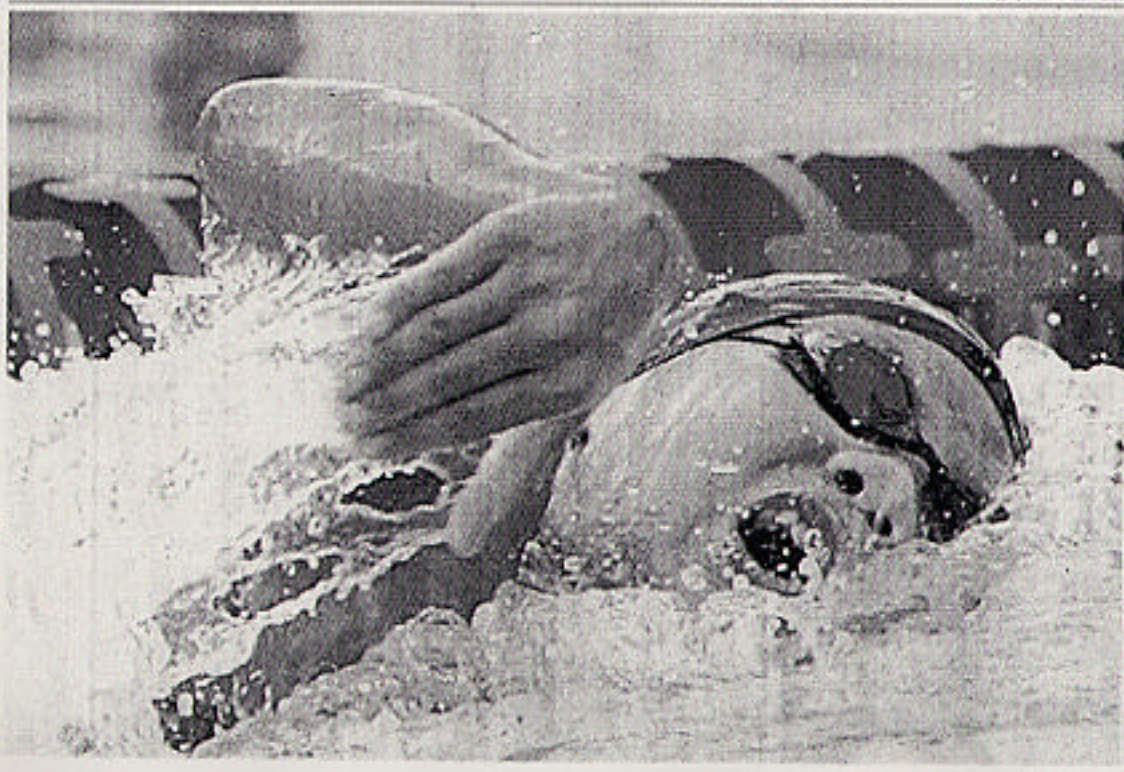
を兼ねた4月の日本選手権では百、二百メートルも3位に終わり、五輪代表の座はならなかった。「自分には五輪に行きたいという自覚が薄かった」と反省する浦部だが、高校総体では負けるわけにはいかない。

スタートから飛び出した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

◆水球男子の
浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で2年連続優勝を果たした。

- ◆競泳決勝◆
第2日、島根県立水泳プール
- 【男子】五十メートル自由形 ①本田翔(大阪・大成学院大高) 23秒72
②百メートル自由形 ①内田翔(群馬・高崎商) 1分50秒93
③大会新の与市園賢(報徳) 1分50秒97
④百メートル背泳ぎ ①古賀厚也(埼玉・春日部共栄) 56秒35
⑤大会新の塔本茂貴(関学) 58秒47
⑥二百メートルバタフライ ①金田和也(東京・八王子) 1分50秒93
⑦大会新
- 【女子】五十メートル自由形 ①水落夏亜(千葉・市船橋) 26秒13
②大会タイ ③小西希沙(市船橋) 26秒32
④二百メートル自由形 ①浦部紀衣(須磨学園) 2分0秒41
⑤大会新
- ⑥百メートル背泳ぎ ①浦部井原(奈良・天國) 1分33秒49
⑦二百メートルバタフライ ①渡辺(群馬・前川女) 2分11秒57
⑧今井美希(須磨学園) 2分13秒78
- 【第2日の対抗陣営】男子 ①春日部共栄(埼玉) 46②報徳(兵庫) 21
③武蔵野(東京)
- 【女子】五十メートル自由形 ①中山彰(須磨学園) 16分33秒51
②落選 ③小島原太朗(報徳) 16分8秒92
④決勝進出 ⑤北田真規(報徳) 16分32秒93
⑥小林佑樹(小野) 16分40秒89
⑦以上落選 ⑧百メートル背泳ぎ ④浦部井原(奈良) 59秒72
⑤落選 ⑥塔本茂貴(関学) 58秒81
⑦決勝進出 ⑧二百メートルバタフライ ⑤組 ②鈴木大和(市川) 2分7秒75
⑥落選
- 【女子】五十メートル自由形 ①組 ①松村優子(海星) 27秒54
②落選 ③組 ④小西希沙(市船橋) 27秒00
⑤決勝進出 ⑥組 ①二百メートル自由形 ⑤組 ①

- ⑧落選 ⑨組 ①須磨学園(須磨) 2分0秒41
②落選 ③組 ④吉村志保(慶應) 8分55秒79
⑤決勝進出 ⑥組 ①近藤沙英(神徳) 9分9秒50
②落選 ③組 ④百メートルバタフライ ⑤組 ②今井美希(須磨学園) 2分15秒08
③決勝進出 ⑥組 ①浦部紀衣(須磨学園) 2分0秒41
②落選
- ◆水球◆
【男子】
▽板飛び込み決勝 ①森大成(京都・久御山) 5.4
②落選



浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で優勝。2位の選手に2秒以上の大差をつけて快勝した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

を兼ねた4月の日本選手権では百、二百メートルも3位に終わり、五輪代表の座はならなかった。「自分には五輪に行きたいという自覚が薄かった」と反省する浦部だが、高校総体では負けるわけにはいかない。

スタートから飛び出した。百メートルを「世界でも通じる」(浦部)という58秒台で折り返したが、スピードは持続せず「後半の練習をもっと積まないと」と今後の課題を口にした。

◆水球男子の
浦部(須磨学園)が2分0秒41の大会新記録で2年連続優勝を果たした。